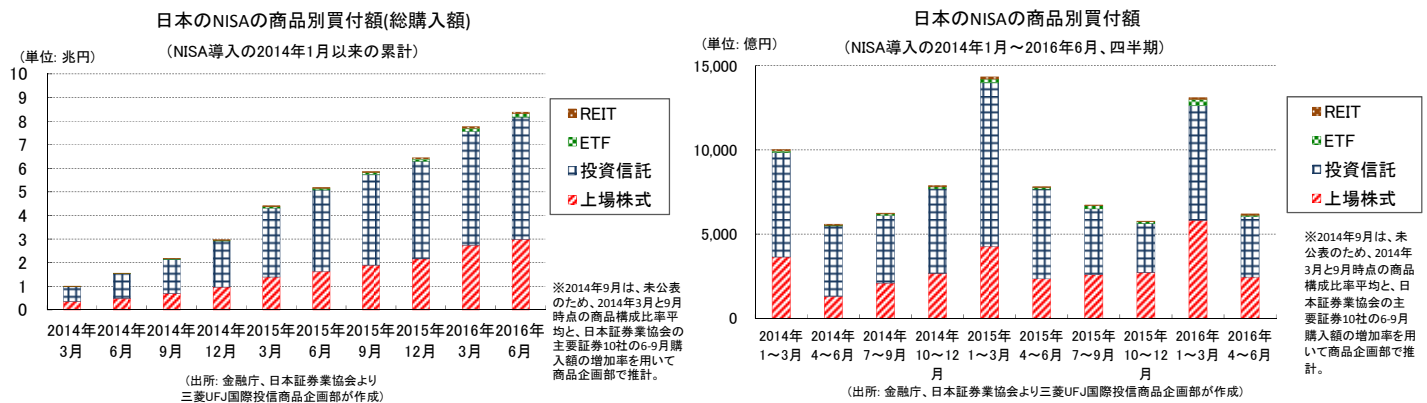


※三菱UFJ国際投信がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

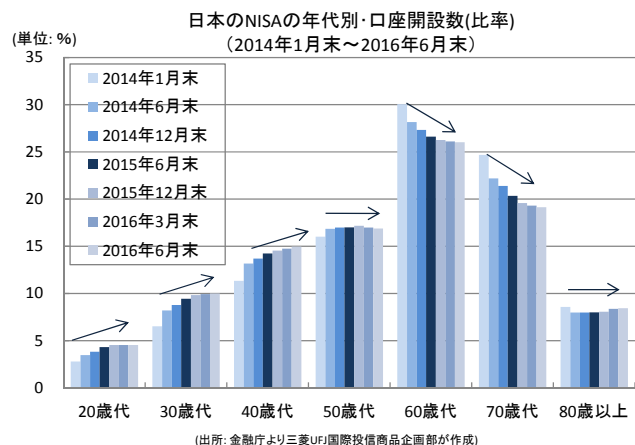
NISAの口座は1030万口座で買付総額は8兆3762億円

2016年9月30日(金)に金融庁がNISA(20歳以上)の利用状況に関する最新調査結果を公表した(URLは後述[参考ホームページ])。2016年6月末現在、開設口座は1029万6622口座で、買付額は8兆3761億7946万円であった(*導入された2014年1月以降)。下記グラフの示す通り、2016年4～6月に買付額が鈍化したものの、投資信託を中心にして、堅調に拡大している様である。



2016年4～6月の鈍化だが、株安円高と言うよりも季節性のものと思われる。株安・円高によるものなら、2016年1～3月も鈍化してよかったからだ。これは例年1月に買付が最も膨らみ、次いで12月に買付が多くなるというNISAならではの傾向と思われる(2016年2月29日付日本版ISAの道 その133参照～URLは後述[参考ホームページ])。

NISA(20歳以上)の口座開設数(比率)を年代別に見ると、右グラフの示す通り、NISA口座開設者の約5割(53.6%)を60歳以上が占めており、約7割(71.5%)を50歳以上が占めている事がわかる。20歳代～40歳代は29.5%を占めるに過ぎない。ただ、60歳以上の口座開設が減少する中、20歳代～40歳代の口座開設が増加している。

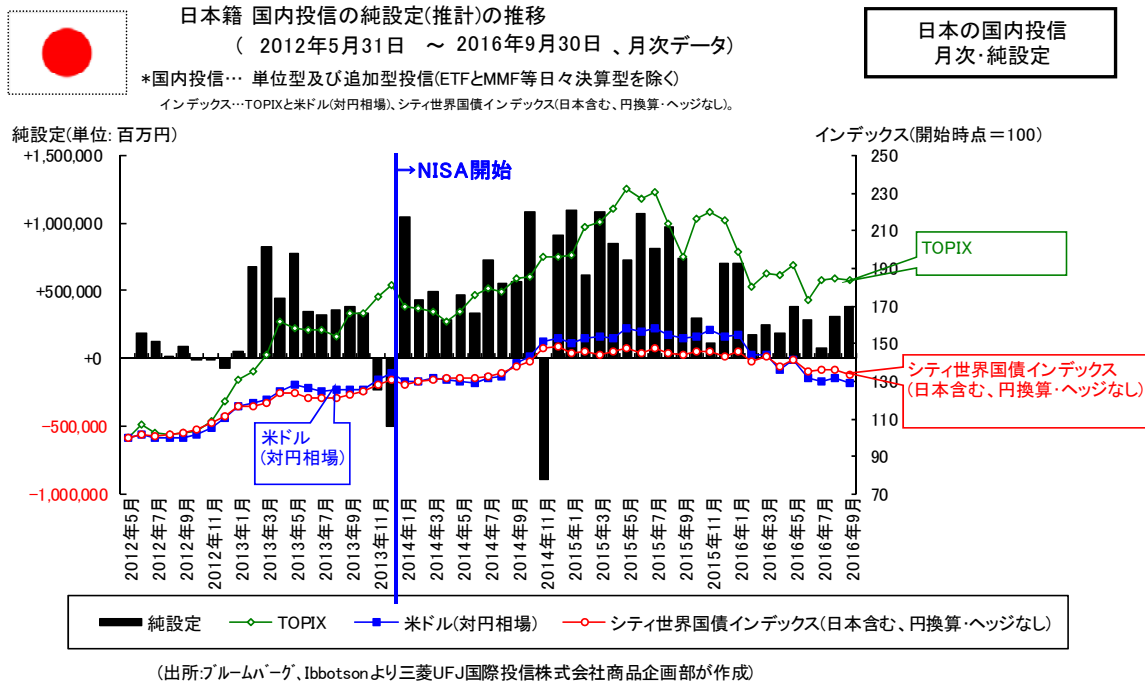


ジュニアNISAの口座は14万件で買付総額は122億円

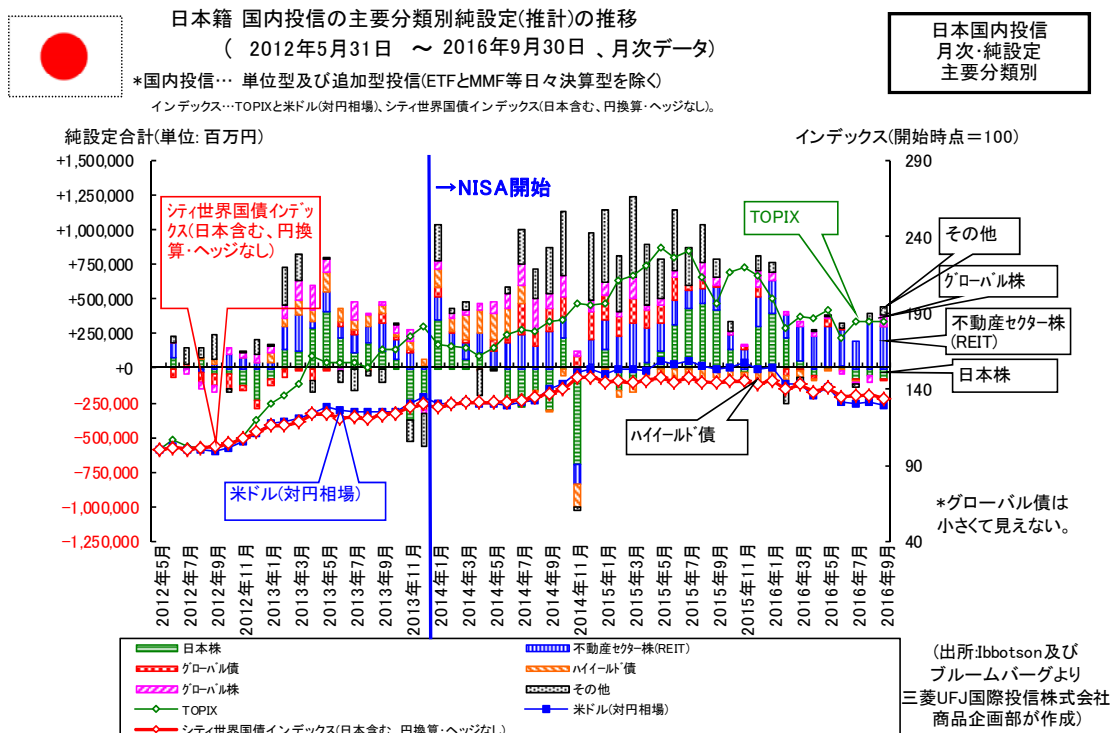
金融庁は、ジュニアNISA(20歳未満)の利用状況に関する最新調査結果も同時に公表している(URLは後述[参考ホームページ])。ジュニアNISAの口座は13万8672口座で、買付額は122億472万円だった(*導入された2016年1月以降)。尚、先のNISA(20歳以上)で20歳代(20歳から29歳まで)が46万8016口座だったのに対して、ジュニアNISA(20歳未満)は0歳から19歳までが対象にもかかわらず13万8672口座と3分の1弱だった。NISAに2年遅れている事で仕方は無いが、ジュニアNISAの認知度の向上がもっと必要と思われる。

NISAの最新動向～既存投資家のREIT人気は継続～

ここで、今後より一層の拡大と普及へ期待のかかるNISAの最新動向を見よう。2016年9月はNISAの投資動向に変化があったのだろうか？投資家を既存投資家と投資の未経験者層(新規投資家)とに分け、既存投資家は投信全体の動向で代替し、投資の未経験者層(新規投資家)はNISA向けファンド(後述※参照)で代替して見る。まず既存投資家を示す投信全体の純設定(推計)だが、2016年9月は+3819億円と、前月8月の+3087億円を上回り2カ月連続の増加で、2016年(1～9月)では1月に次いで2番目に大きな資金純流入となった。



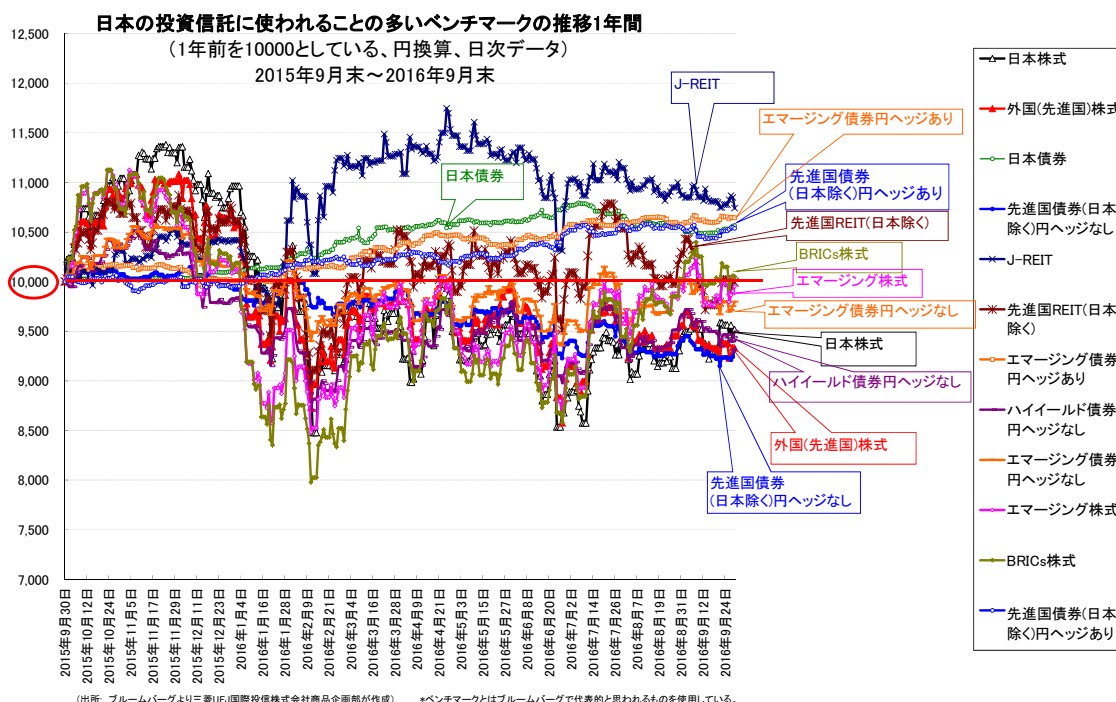
投資対象(主要分類)別で見る。2016年9月に最も純設定の大きかったのは、不動産セクター株(REIT)で、次いでグローバル株、アジア株(除く日本)、アセットアロケーション債重型だった(下記グラフ参照 *主要分類…モーニングスター分類で2015年12月末の純資産の大きい上位5分類)。



不動産セクター株(REIT)は9月の純設定額が+3025億円と、2016年3月から9カ月連続で純設定額1位だ。「日本では昔から『堅実な投資先』として不動産の人気は高かったが、マイナス金利時代に突入し、利回り確保を狙う個人マネーが殺到した。」(2016年9月24日付日本経済新聞電子版～URLは後述[参考ホームページ])と書かれている様に、年始から大きな純流入が続いているREITファンド、特に米国REITに投資するファンド人気である。不動産セクター株(REIT)は、昨年2015年(1～12月)の年間純流入額が2.3兆円だったが、2016年は投信全体が低調の中、9月までで既に2.3兆円と昨年と同水準の純流入となっている。

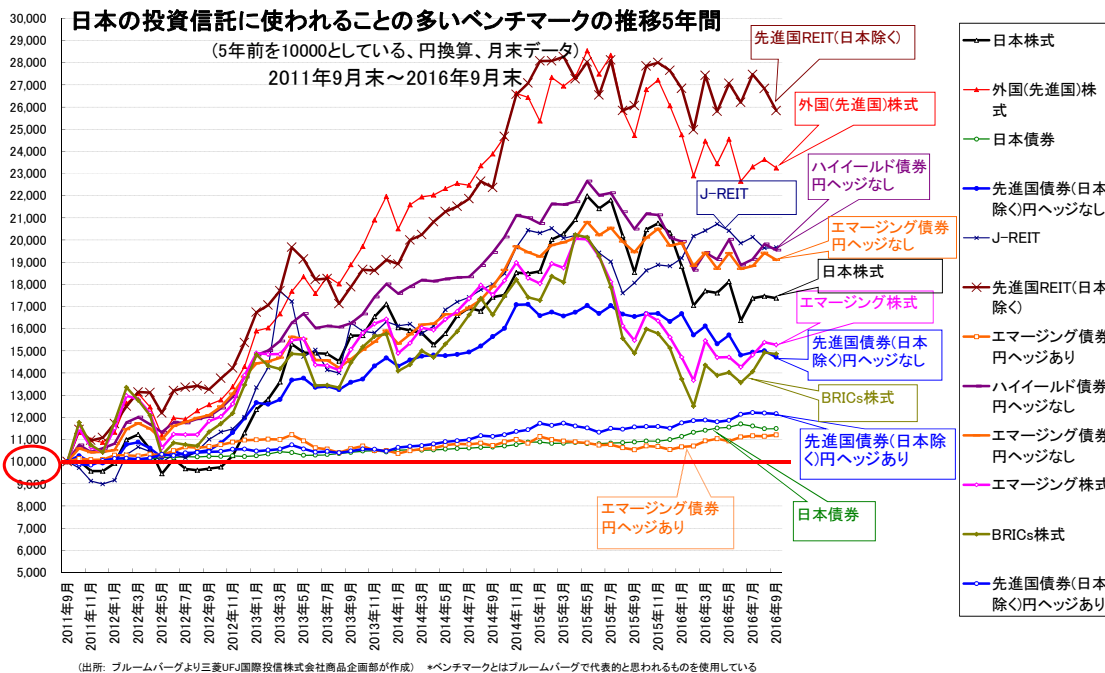
一方、日本株は9月に-680億円と、8月の-520億円を上回り、3カ月連続の純流出となった。日本株は、前年2015年(1～12月)に+2.2兆円弱の純流入(全35分類中2位)となり、2016年の初めまでは好調な純流入だったが、7月から3カ月連続で大きな純流出が続き、2016年(1～9月)の純設定額は+4705億円となっている。

日本の投信の純設定とパフォーマンスの関係はどうだろう？ 投信に使われることの多いベンチマークのパフォーマンス推移を見た所、下記の通り、1年のパフォーマンスの好い順に、J-REIT、エマージング債券円ヘッジあり、国内債券、先進国債券(日本除く)円ヘッジあり、となっている(*グラフは1年前を10000としている、円換算、日次データ)。J-REITのパフォーマンスは1年で見れば良いが、2016年3月末からの半年間で見ると、下記グラフのベンチマークで下から3番目となるので(最低で先進国REITで、下から2番目が先進国債券円ヘッジなし)、今後の人気に影響を与える可能性はある。



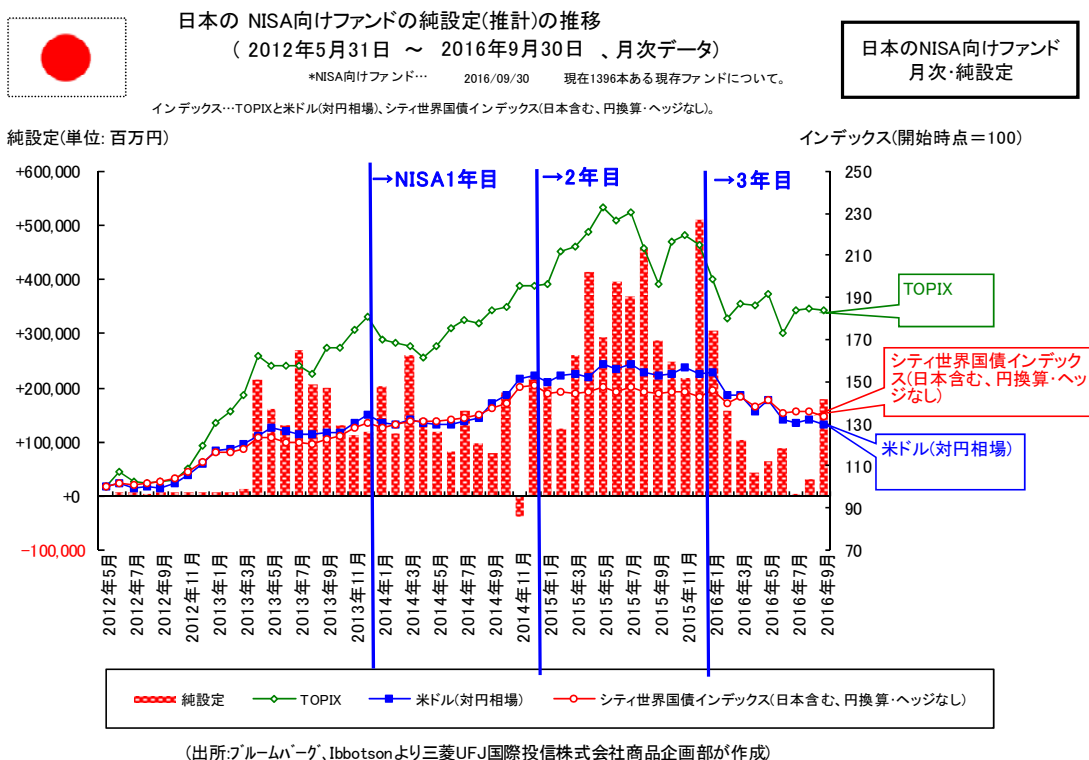
次頁グラフは以上の5年のパフォーマンスである。パフォーマンスの好い順に、先進国REIT、先進国株式、J-REIT、ハイイールド債券円ヘッジなし、エマージング債券円ヘッジなし、日本株式、エマージング株式となっている(*グラフは5年前を10000としている、円換算、月末データ)。

先進国REITのパフォーマンスは1年で見れば良いが、2016年3月末からの半年間で見ると、次頁グラフのベンチマークで最低となるので(下から2番目が先進国債券円ヘッジなしで、下から3番目がJ-REIT)、今後の人気に影響を与える可能性はある。



NISA 向けファンドの人気はグローバル株やアセットアロケーション柔軟型など

次に新規投資家を示す NISA 向けファンドの純設定を見る。 下記グラフの通り、最新 2016 年 9 月は+1765 億円と前月 8 月の+289 億円を上回り、2ヶ月連続の増加で 2016 年では 1 月に次いで 2 番目の大きさだった。

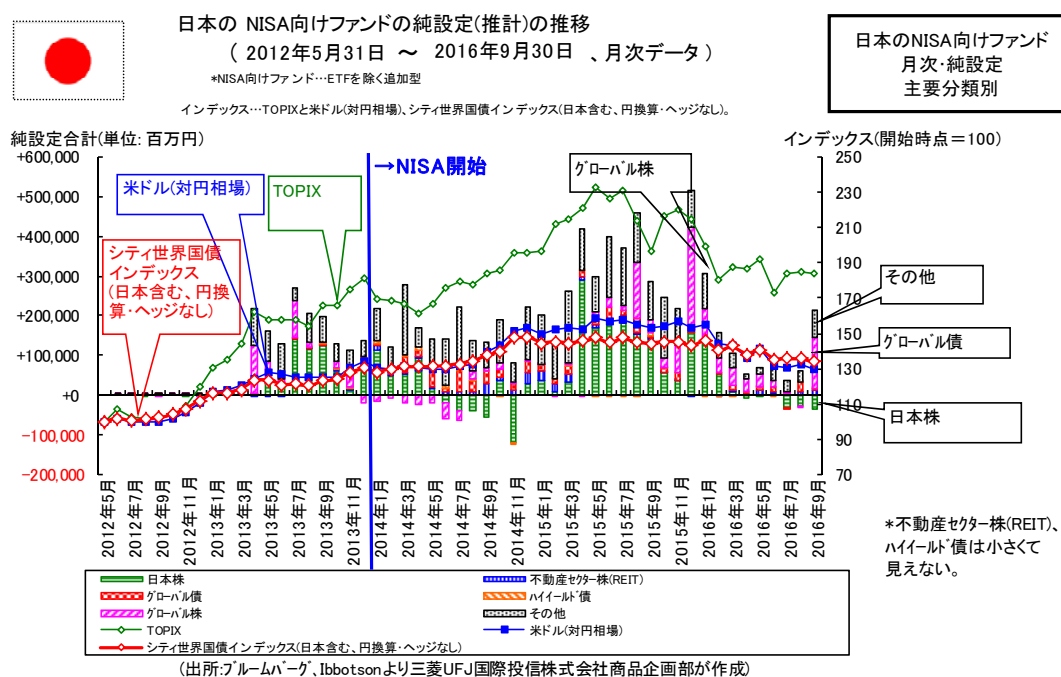


※「NISA 向けファンド」…投資信託協会の言う「NISA 向けのファンド(*分配頻度が低いファンド、低コストのファンド、バランス型ファンド)」を参考にしながら(URL は後述[参考ホームページ]), 2013 年 11 月末時点の契約型公募投信純資産が

1兆円以上ある投信会社17社(*全84社の約90%を占める)の株式投信(ETFを含む)で「NISA向け」、「NISA専用」、「NISAで選ぶ」、「NISAにおすすめ」などと紹介されているファンド、それに加え、2013年4月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンドとしている。尚、2013年4月以降と言うのは、NISAが含まれる税制改正(関連)法が2013年3月30日に成立・政省令公布されたため。また、単位型・限定追加型・年1~2回分配以外のファンド・DC・SMA・ミリオン(従業員積立投資プラン)を含めていない。ただ、同じシリーズが該当している場合は年1~2回以外を含めている。しかし、通貨選択型については、年1~2回以外を除いている(*マネー・プールは年1~2回でも除いている)。こうした「NISA向けファンド」を抽出した所、2016年9月30日時点で1396本となった。

この新規投資家と思われる投信の2016年9月純設定を、投資対象(主要分類)別に見る。前述した既存投資家と思われる国内投信全体での主要分類を用いると、9月の純流入1位はグローバル株(8月29位)、2位はアセットアロケーション柔軟型(同1位)、3位はCB(同27位)、4位はその他株(同3位)、5位は不動産セクター株(REIT)(同5位)となっている(アセットアロケーション、CB及びその他株は次頁グラフで「その他」に含まれる)。

9月に最も純設定の大きかったグローバル株や2位のアセットアロケーション柔軟型は、9月に新規設定されたファンドによるところもあるが、2016年(1~9月)年初来の純設定額でもそれぞれ1・2位となっており、新規設定以外のファンドにも流入が続いている。一方、日本株は、2016年1月頃まで全体の純設定の半分を占めていたが、9月は-347億円と、既存投資家同様、3カ月連続の純流出となった。



ネット証券での人気はグローバル株・REIT・日本株

最後に、各証券会社の集計結果も見ると、2016年10月6日現在で、各社HP(口座保有者限定の閲覧サイトは除く)に公表されている最新NISA・投資信託動向だが、ランキングを掲載しているのはネット証券会社が多かった。ランキングの集計時期や方法は証券会社により異なるので、ここでは、ネット証券各社がHPで公表する最新の内容を紹介する。NISA口座における投資対象はどのようなものか傾向を見る参考としてほしい。個別ファンドなどの詳細はオリジナルのサイトを参照の事(URLは後述[参考ホームページ])。

<NISA 投資信託>

○マネックス証券は最新 2016 年 9 月の NISA 口座における月間売れ筋ファンド(販売額)のベスト 10 を発表しており、1 位は不動産セクター(REIT)ファンド、2・5 位はグローバル株ファンド、3・4 位は日本株ファンドとなっている(2・4・5 位はインデックスファンド)。前月 8 月は、1・3・5 位は不動産セクター(REIT)ファンド、2 位はグローバル株ファンド、4 位は日本株ファンドだった(2 位はインデックスファンド)。また週間の売れ筋ファンド(販売額)についても発表しており、最新週 9 月 26 日から 9 月 30 日までは、9 月の月間と同じで 1 位は不動産セクター(REIT)ファンド、2・5 位はグローバル株ファンド、3・4 位は日本株ファンドとなっている(2・4・5 位はインデックスファンド)。参考まで、一ヶ月程前の 9 月 5 日から 9 月 9 日までは、1・2 位は不動産セクター(REIT)ファンド、3・4 位は日本株ファンド、5 位はグローバル株ファンドとなっている(3・5 位はインデックスファンド)だった。

○最大手である SBI 証券は週間のランキングを発表しており、最新週 9 月 26 日から 9 月 30 日までの取引をもとにした NISA の投資信託・買付金額の 1 位はグローバル株ファンド、2・4 位は日本株ファンド、3 位はアセットアロケーションファンド、5 位は不動産セクター(REIT)ファンド(1・2 位はインデックスファンド)。一ヶ月程前の 9 月 5 日から 9 月 9 日までの取引をもとにした NISA の投資信託・買付金額の 1・3・4 位は不動産セクター(REIT)ファンド、2 位はグローバル株ファンド、5 位は日本株ファンド(2 位はインデックスファンド)だった。

○楽天証券も週間ランキングを発表しており、9 月 26 日から 9 月 30 日までの NISA 投資信託・買付金額の 1 位はグローバル株ファンド、2・4 位は不動産セクター株(REIT)ファンド、3・5 位は日本株ファンド(1・3 位はインデックスファンド)。一ヶ月程前の 9 月 5 日から 9 月 9 日までの NISA 投資信託・買付金額の 1・3 位は不動産セクター株(REIT)ファンド、2 位はグローバル株ファンド、4・5 位は日本株ファンド(2・4 位はインデックスファンド)だった。

<ジュニア NISA 投資信託>

○SBI 証券は週間のランキングを発表しており、最新週 9 月 26 日から 9 月 30 日までの取引をもとにしたジュニア NISA の投資信託・買付金額の 1・5 位はグローバル株ファンド、2 位はアセットアロケーションファンド、3・4 位は不動産セクター株(REIT)ファンド(1・2・5 位はインデックスファンド)。一ヶ月程前の 9 月 5 日から 9 月 9 日までの取引をもとにしたジュニア NISA の投資信託・買付金額の 1・4 位は不動産セクター株(REIT)ファンド、2・3 位はグローバル株ファンド、5 位は日本債ファンドだった。

<NISA 積立~2016 年 10 月 6 日現在で入手できる最新(公表データは限られており、集計の時期や対象は各社で異なるのであくまで参考まで)>

○マネックス証券では、2016 年 9 月の NISA 月間積立契約件数ランキングを出しており、1・2 位は日本株ファンド、3・4 位はグローバル株ファンド、5 位はアセットアロケーションファンドとなっている(*7・8 月と順位は同じ。1・3・4 位はインデックスファンド)。

○楽天証券は積立設定件数ランキングを週間で発表しており、最新週 9 月 26 日から 9 月 30 日までの NISA 口座では、1・3・4 位はグローバル株ファンド、2・5 位は日本株ファンドとなっている(*1~4 位はインデックスファンド)。

ネット証券では、9 月はグローバル株、不動産セクター株(REIT)、次いで日本株の人気が見られ、インデックスファンドの人気も強まっている様である。

以上、2016年9月にNISAで投資された先を、既存投資家、新規投資家、ネット証券などの順で見えてきた。既存投資家とネット証券の人気はREIT、NISA向けファンドとネット証券ではグローバル株やアロケーションファンドも人気だった。ネット証券の積立では日本株が人気だった。もちろん、今後を示すものではないが、こうした情報が個人投資家の参考になれば幸いである。

以上

[参考ホームページ]

2016年9月30日(金)付金融庁「NISA・ジュニアNISA口座の利用状況に関する調査結果」(平成28年6月末)…「<http://www.fsa.go.jp/policy/nisa/20160930-1.html>」、

2016年2月29日付日本版ISAの道 その133「NISA口座買付額が1月に過去最大!~日英における株価の月間騰落率、投信全体の月間設定・販売額、そしてNISA/ISAの月間買付額・販売額~」…

「https://www.am.mufg.jp/text/oshirase_160229.pdf」

2015年9月24日付日本経済新聞朝刊「マイナス金利時代の投資術 低変動率商品で資産防衛」…

「<http://www.nikkei.com/article/DGXMZO07546520T20C16A9000000/>」、

2014年1月8日付投資信託協会メールマガジン「NISA向けのファンドって?」…「<http://www.toushin.or.jp/mailmag/>」、

SBI証券のNISAランキング・投資信託…「<https://www.sbisec.co.jp/>」、

楽天証券のNISAランキング・投資信託…「https://www.rakuten-sec.co.jp/NISA/#NISA_ranking」、

マネックス証券のNISA月間売れ筋ランキング・投資信託・販売金額…

「<https://fund.monex.co.jp/rankinglist#NISAMonthlySales>」。

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 当資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、三菱UFJ国際投信が作成したものです。当資料は投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 当資料に示す意見等は、特に断りのない限り当資料作成日現在の筆者の見解です。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。
- 投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご注意ください。
- 投資信託は、ご購入時・保有時・ご換金時に手数料等の費用をご負担いただく場合があります。

本資料中で使用している指数について

- ・東証株価指数(TOPIX)に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。
- ・シティ世界国債インデックスとは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。